

# もちり ネバナネバの森

植物学者・中尾佐助のインパクト

企画展限定！

緑色の服を着て  
ご来館の方に  
オリジナル  
中尾佐助缶バッジ  
プレゼント



令和3年  
2021 5.1(土) - 9.5(日)

【休館日】月・火曜日・国民の祝日・5.6(木)

【開館時間】10:00 ~ 18:00 (入館は17:30まで)

【入館料】大人300円(250円) 小中学生150円(100円)

( )内は20名以上の団体料金 ※東近江市民、障害者およびその引率者は入館無料

会場 西堀榮三郎記念探検の殿堂2階展示室

主催 西堀榮三郎記念探検の殿堂

特別協力

大阪府立大学学術情報センター図書館／照葉樹林文化研究会／とよす株式会社 商品開発部 商品企画チーム／浅野悟史(京都大学大学院 地球環境学 助教)／栗田靖之(国立民族学博物館名誉教授、探検家選考・企画委員)／時任美乃理(京都大学大学院 地球環境学 研究員)／Pema Eden(京都大学大学院 地球環境学 地域資源計画論分野 修士課程2年／ブータン出身の留学生)／牧輝弥(近畿大学 理工学部 生命科学科 教授)／山口裕文(大阪府立大学名誉教授、照葉樹林文化研究会会長)／横山智(名古屋大学 環境学 研究科 教授)／川上喜代美(きの花)／森小夜子(植物愛好家)／平木康平・百合子、村田麻里子(中尾佐助ご遺族)(順不同・敬称略)

# 農業は、生産する文化である

「文化」は英語で「カルチャー」この語のもとの意味は『耕す』ことである。地を耕して作物を育てること、これが文化の原義である。農業を文化としてとらえてみると、そこには驚くばかりの現象がみちている。

(中尾佐助著『栽培植物と農耕の起源』より)



中尾佐助が提唱した『照葉樹林文化論』は、ヒマラヤ山麓から中国西南部を経て西日本に至る照葉樹林帯における文化的共通性を論じ、「戦後日本の最大の仮説」と言われました。

植物学者(探検家)・中尾佐助とは、どのような人物だったのか？  
照葉樹林帯の文化的共通性とは？

日本人が好むもっちり・ネバネバした食べ物は、実は照葉樹林文化が持つ独特な味覚体系だった？

「ナットウの三角形」(手作りパネル)ほか中尾の資料をご覧ください、国境も学問の境界も自由に飛びこえた中尾について紹介します。

2020年に寄贈された中尾佐助コレクションのお披露目展です。



写真：中尾佐助データベースより(N78-096-26)  
なかおさすけ

**中尾佐助** (1916-1993)

日本人初のブータン踏査と独創的な農耕文化論で探検家として殿堂入り



## 展示関連イベント

くわしくは探検の殿堂公式サイトをご覧ください→

公式サイト



フィールドワーク

**東近江市内に残っている  
照葉樹林を見て歩こう!**

**5.15(土) 10:00-16:30**

参加費：1,200円  
(保険料・昼食代含む)

政所紅茶つき

昼食：きの花特製・照葉樹林を味わう弁当

定員：12人

講師：浅野悟史氏・時任美乃理氏

集合・解散：探検の殿堂



サイエンスカフェ

**「納豆の起源 知らネバ…」**

**7.18(日) 10:15-12:00**

コロナウイルス感染症拡大防止のため、ZOOM配信になる場合があります。

①**探検の殿堂** 参加費：300円 定員：20人  
現地参加の場合、納豆のお菓子と政所煎茶つき

②**ZOOM視聴** 参加費：無料 定員：若干名

講師：横山智氏(名古屋大学環境学研究科教授)

『納豆の起源』の著者。

『納豆の食文化誌(仮)』が農文協から2021年6月末に刊行予定



探検の殿堂周辺で照葉樹のミニ観察会(月1開催)も行います。くわしくは公式サイトをごらんください。

## 西堀榮三郎記念探検の殿堂

【住所】527-0135 滋賀県東近江市横溝町419番地

【TEL】0749-45-0011 【FAX】0749-45-3556

【メール】tanken@city.higashiomi.lg.jp

